

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	放課後等デイサービス はびねすグレード			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 25日		～	2026年 3月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2026年 2月 25日		～	2026年 3月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動する部屋の多さ、廊下や玄関・踊り場に至るまでの広々スペースが児童にとって清潔安全な場所。	相談室・職員室・キッチン等の他に、活動や作業を行う部屋が9室あり、タイムスケジュールにて利用児がローテーションしていく仕組みから、個別活動・集団活動いずれも上手く動くことができる。また、他児の動きや視線を気にせず集中して活動できる。	同一事業所に家庭科室を増設したことにより、活動や取り組みのバリエーションが増え、出来ることが増えていく。
2	送迎車両にハイブリッド車を採用している事から災害時も電源供給に困らない。 昨年度の熊出没騒動に対応し、建物を囲み安全を確保できるようフェンスを設けた。	車内電源から様々な家電へ電気の供給を実演し、災害の恐ろしさや不便さを等を指導・療育が出来る。	熊出没に関して、ニュースや痕跡等で身近に感じていることに加え、地域柄他人事ではないことを感じとり、理解を深めることに努める。
3	利用児一人ひとりに合わせた個人スケジュールを毎日作成し、ライフトレーニングに力を入れ、丁寧な療育を行っている。	将来の生活を今から見据え、他者との共存(グループホームや寄宿舎生活等)にも目を向けた上で個人スケジュールに集団活動を織り交ぜながら訓練をしている。 苦手に関しては、職員が仲立ちをしながら、少しずつ支援している。	利用児童が興味・関心をもって取り組める活動を考え、さらに取り入れていきたい。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職(保育士を除く士業)による療育・支援。	理学療法士や心理士等、絶対的に必要不可欠とまでは考えていないが、何らかの事由につき必要となった場合に人材確保や雇用事情が難しいと考える。	現在のスタッフで、研修の受講やスキルアップのための講義等、積極的に参加するようにしていく。
2	熊騒動で地域柄、戸外での活動が制限されがちであった。	室内活動のバリエーションを豊かに、充実して楽しい活動が出来るようにする。	送迎時、車両からの乗り降りを安全に行えるよう、万が一に備えてフェンスを新しく設け、対処済みである。
3	外部研修が少なめであること。	療育中の時間帯に開催される研修は、繁忙時間なため参加できないことが多い。	YouTube動画やZoom等も生かし、広い分野での見識を高め・情報を収集していきたい。